

平成29年度茨城県教育研究会アンケート結果

(自由記述から主なものを、そのまま転記しました)

茨城県教育研究会 組織活性化委員会

1 学力向上のための授業改善について

I 少人数指導の充実について

今後の少人数指導の在り方について、あなたが思うことや考えていることを、ご自由にお書きください。

○ 少人数指導を効果的に行うための研修等

- ・教室を等質にするか習熟度にするかを教科や指導内容に応じて弾力的にした方が良く考えますが、実際にやってみて気づくこともあり研修や実践が必要になると考える。
- ・効果的に行うための指導形態や指導方法の作成とそれに基づいた授業実践を行い、少人数指導のメリットをさらに生かしたい。
- ・少人数指導の有効性が十分発揮される学習形態や指導方法を研修する必要がある。

○ 教材研究、準備のための時間の確保

- ・本校では、児童一人一人の学習の習得状況に合わせて指導することが多い。そのため、少人数指導担当者が授業の準備(教材教具づくり・プリント等の作成)に時間が不足している。これらの状況を解決するために、担任との役割分担を大切にしていこう必要があると思う。
- ・一人一人の能力に応じた手立てを講じることが大切である。そのために、教材研究をよく行い、個々に応じたきめ細やかな指導を練る必要がある。同時に一斉指導ばかりにならず、互いに学びの質を高めながら深い学習を積み重ねていく必要がある。

○ 指導力のある少人数指導担当者の配置

- ・専門の教師が担当することにより、質の高い授業ができると考える。
- ・少人数指導こそ、経験豊富で指導力のある教諭が配置されるべきだと思います。
- ・経験豊かな方が若手教員のサポートを行うことができれば、効果は大きいと思う。

○ 複数の目、多面的な支援

- ・学力向上のためだけでなく、様々な学級に入ることによって、学級の様子を敏感に感じ取ってもらえたり、情報を提供してもらったりできる存在であるので、多面的に力になってくれる頼もしい人材であると思う。
- ・クラスの児童を、担任だけではなく、複数の目で見守り、支援できる点で、少人数指導は大変有効である。とくに学習が遅れがちな児童にとっては、全体指導とは別に個別指導の機会も増えている。様々な体験的活動も増えていく昨今、今後少人数指導のニーズはますます高まってくると考える。
- ・複数の目で見ることにより、よりきめ細かな丁寧な指導ができると考える。そのことを、学力向上につなげるためには目的意識や役割分担を明確に行うなどの研修が必要であろう。

○ 特別な支援を必要とする児童生徒への支援

- ・本校の現状では、単なる学力が遅滞している児童よりも発達障害と思われるものが普通学級に多数在籍している。そのため、特別支援に関する専門的な知識をもった少人数担当職員がいれば非常に助かる。
- ・近年特別な配慮を要する児童の割合も多くなっており、支援員だけでなく教員の加配数も増やしてほしいところである。
- ・発達障害のある生徒など、特に配慮を要する生徒が増える傾向にある。学校の実情に合わせて職員の配置をお願いしたい。

○ その他

- ・小学校は空き時間のある先生がいないので、少人数指導は加配があるので実施できているが、加配してもらえないと実施がきわめて困難です。だから、加配の継続が必要だと考えています。
- ・児童生徒・保護者のニーズの多様さに対応する効果的な方法であると思います。
- ・本校では児童数の増加が進行していることによる慢性的な教室の不足が問題となっている。そのため、少人数指導加配の機能を十分活用できるような環境が整っていない。
- ・学習内容により、適した学習者の人数があるため、柔軟に対応できるような制度になることが望ましいと考える。学び合いに適した内容では20人程度がよいが、習熟を目指したドリル的な内容では10人程度がよいと考える。
- ・アクティブ・ラーニングを実施するにあたり、少人数指導による課題別や習熟度別学習を進めるよりもTTなど1時間での指導教員数を増やした方がよいと思う。
- ・小規模の小学校が統合され、1学級10人程度の学級から1学級30人以上の学級になり、児童も戸惑っていると思います。できれば少人数指導の教科や人数を増やした方がよいと思う。

※設問6の少人数指導の課題にあった、以下の内容についての意見が多数寄せられていた。

- 打ち合わせの時間の確保が難しいこと
- 配置人数が少ないこと
- 支援を要する児童生徒が多いこと
- 学習評価へのかかわり方が難しいこと
- 空き教室が不足していること
- 授業進度の調整が難しいこと

2 茨城県教育研究会の事業等について

茨城県教育研究会が会員の皆さんにとって活動の拠点となり、有意義で役に立つ組織でありたいと願っています。

そこで、「会員のためのよりよい教育研究会」にするために、要望や提案等がありましたらお書きください。

○ 業務の効率化

- ・業務の効率化という観点から、重点指定年度を隔年としていただいたことは、学校として非常に助かります。ありがとうございます。
- ・各種報告や調査物が多すぎる。特に似たような調査が何度も来る場合があるので、業務の効率化と逆行している感じがする。
- ・重点指定年度は、各研究部会ごとに発表しているが、小規模校は複数の校務分掌を担当しているため、業務の効率化をあまり実感できていない。
- ・業務の効率化について新たな取り組みをお願いしたい。市単位・ブロック単位の研究部組織を整理すること、重点年度を3年に一度にすることなど。

○ 必要な情報の提供

- ・それぞれの研究会での最新の情報が、職員研修等ですぐに活用できるようなわかりやすい資料として提供していただけると、職員への周知がスムーズになり、教務にとっては業務の効率化につながると思う。
- ・市教研単位の研修で毎年講師を探すのに苦労しています。県教研で各教育部会の講師リストがあると良いと思います。
- ・今後も、常に最新の情報を提供していただきたい。
- ・教材の資料や指導案等のデータを、茨城県の先生方全員で共有できれば、授業力向上につながるし、業務の効率化も図れると思う。
- ・児童の豊かな学習や体験を支えるために、社会人や地域の人材確保がカリキュラム上どうしても必要です。そのため教育研究会からも、「人材バンク一覧」を学校へ提供していただけないかと思います。
- ・次期学習指導要領改定に向けた最新情報や実践事例を随時提供していただければ幸いです。特に特別の教科道徳や外国語科の指導法や時間割編成についての情報提供をお願い致します。

○ 新たな教育課題への対応

- ・次期学習指導要領の実施に向けた各教科、領域での研修を今後計画的に取り入れていってほしい。
- ・教育が学習指導要領の改定によって大きく変わろうとする今、さまざまな情報を分かりやすく伝達していただけるとうれしいです。
- ・次期学習指導要領へのスムーズな移行のために、具体的な教育活動、先進校等のモデルとなる授業、計画の研修機会を設けてほしい。
- ・道徳の教科化について、研修の持ち方や評価の仕方について、まだあまり研修ができていないので効果的な資料があるとよい。

○ 活動の周知

- ・上記の県教研の「業務の効率化」は、市レベルには届いていないと思う。重点化の有無に係わらず、毎年授業研究会や講演会等が実施されている研究部が多くある。また、一時期減ったはずの様々な出張や提出物が増えているとも感じる。特に、必ず参加しなければならない作品募集や取り組み等のため、こなすだけになっている先生方の姿が痛々しいです。
- ・管理職以外は、事業内容等がよくわかっていない職員が多いように思う。

○ その他

- ・教育論文は教職員の資質向上を図るという点で大変素晴らしい事業であるので、継続していただきたい。入賞した方とそうでない方への説明はできないものか。弘済会は一人一人にコメントを出している。論文を単に出せばいいという意識を改革するためにも、選考基準の公開等をしていただきたい。
- ・研究指定、郡市部長の選定、会議への出席等において小規模校（会員数の少ない学校）に負担がかからないような配慮をできるかぎりお願いしたいです。
- ・学年やブロック、チームでの協働的な取組が、業務の適正化になったり、協働する喜びを体得できたりと、業務を苦と思わなくなるのではないのでしょうか。
- ・重点研究部とそうでない研究部を隔年にする理由は何でしょうか。本当に必要な研究部を吟味し、そこだけ必要ならば重点とすれば良いと思います。
- ・会報のより一層の充実
今後、若手教員が増えていくことを考えた時に、現場では年齢構成のアンバランスさと若手教員の研修との課題が出てくると思われる。そこで、若手教員が教育現場で自信をもって、生き生きと活動していくために、毎月や隔月などで若手教員に向けたリーフレットなどを配布して頂けると研修などでも役に立ち、現場でも活用できるのではないかと思います。

※茨城県教育研究会の取組に対してだけでなく、県の取組に対しての意見も多数寄せられていた。